

教育心理学教室教官の研究状況報告

研究経過報告 ——'91年秋～'92年夏——

小嶋秀夫

【歴史的・文化的発達研究】 最近に考えている子育てに関するエスノ心理学的アイディアのプール(ethnopsychological pool of ideas, E-P-Iと略す)という概念を中心として、イギリスの日本研究協会の1992年度年次大会で発表した：Ethnopsychology on child-rearing in the Edo period and importation of Western child-rearing ideas and practices in Meiji-period Japan. Paper presented at British Association for Japanese Studies 1992 Conference, Bath, April, 1992.

講座・ハンドブックの章を2篇書いた：「子どもの発達とその社会的・文化的・歴史的背景」 小嶋秀夫(編)『発達と社会・文化・歴史』(新・児童心理学講座14) 金子書房, 1991. Pp. 1-36; 「社会、文化と発達」 東洋ほか(編)『発達心理学ハンドブック』 福村出版, 1992. Pp. 1131-1150.

また、以前に参加していた学際的共同研究(日本文化と日本人の形成——『型』の問題；代表者=源了圓・国際基督教大学教授<当時>, 1986-1988年)に関する本が出て、その1つの章を担当している：「子育てにおける型の基礎—近世日本」 源了圓(編)『型と日本文化』 創文社, 1992. Pp. 141-182.

なお、以前に述べた下記論文が実際に現れた(1991年9月)：Auto-régulation dans la façon traditionnelle dont on élève les enfants au Japon. In C. Garnier (Ed.), Le corps rassemblé. Montréal : Agence d'ARC, 1991, Pp. 276-290. (Translated by C. Garnier et al.)

【家族関係；社会的相互作用・対人関係と発達】 Nurturance(養護性)の形成過程の理論面の検討を進め、日本発達心理学会第3回大会(神戸市, 1992年3月)での内的作業モデルのラウンド・テーブル(企画：古沢頼雄)で提起するとともに、ポスター・セッションで妊婦を対象とした調査研究(中西由里・粟津幹子両氏と共同)を報告した。

また、小学生の社会サポート体制と学級適応に関する研究(宮川充司氏と共同)は、日本教育心理学会第34回総会(長野市, 1992年10月)で発表することになっている。

「子育てをめぐる心の問題—不安と喜び—」は、母子関係への注目の時代的背景、親子関係の成立・形成を通しての親子の成長、親の育ちと経験の影響と社会的サポート体制の効果の3点を論じたものである(田畠治・蔭山英順・小嶋秀夫(編)『現代人の心の健康—ライフサイクルの視点から—』名古屋大学出版会, 1992. Pp. 17-32)。

【発達の概念と発達論】 同僚の本城秀次氏が世話をしておられる乳幼児医学・心理学研究会での特別講演(1991年10月)のポイント(発達とはどのような概念であるのか、心理学的発達研究はどのような視点に立つか)をまとめたエッセイ「心理学的発達の基本概念と視点」が、乳幼児医学・心理学研究, 1992, 1, 1-6. に載ることになっている。

生涯発達に関しては、討論論文の「生涯発達論についてのいくつかの論点」(名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 1991, 38, 27-32)のほかに、教育史の研究者を中心に編まれた本に「児童心理学の誕生と<老人>」が載ることになっている(中内敏夫(編)『老いと「生い」』 藤原書店, 1992. Pp. 275-303).

【レビュー論文】 日本の教育心理学の歴史的背景、現状と課題を主としてヨーロッパの研究者向けに書いた論文が、実際に出了：Current status, historical back-ground, and problems of educational psychology in Japan. Zeitschrift für Pädagogische Psychologie, 1992, 6, 63-73.

【テキスト・辞典等】

『教育心理学小辞典』 三宅和夫・北尾倫彦・小嶋秀夫(編), 有斐閣が実際に出了(1991年9月).

【その他】 教育研究特別経費による入試に関する共同研究の報告書(1992年3月)が出た。得られた貴重な

データは、今後も分析を続けることになっている。

また、市販誌等に若干のエッセイ・書評を書いた：「知恵と知能の発達」(教育と医学, 1991, 29, 829-834)；「子育てと人間の発達を考える」(ライフサイエンス, 1992, 19(12), 19-23)；「幼児期の不安」(臨床精神医学,

1992, 21(4), 535-541)；「思春期の行動科学（小児医学, 1992, 25(3), 435-446)；書評「松沢哲郎（著）チンパンジー・マインド 心と認識の世界」(CODER NEWS LETTER, 1992, 24, 9-12).

(1992年8月14日)

研究経過報告（平成2年9月～平成4年8月）

田畠 治

1. カウンセリング過程と精神保健の研究 メンタルヘルス

〔著書・編著〕

アセスマント面接と行動観察. 安香宏・田中富士夫・福島章編『人格の理解①』(臨床心理学大系全16巻のうち第5巻). 金子書房, 34-53頁, 1991.

ジェンドリンのデモンストレーションI—夢とフォーカシング』(逐語録・担当者のコメント；伊藤義美と共同). 村山正治編『フォーカシング・セミナー』福村出版, 30-43頁, 1991.

心理療法の評価. 岡田康伸・田畠治・東山紘久編『心理療法』(河合隼雄監修, 第3巻, 第5章), 創元社, 263-269頁, 1992.

日本におけるカウンセリングの展開. 氏原寛・東山紘久編『カウンセリング入門』(別冊『発達』13号), ミネルヴァ書房, 39-47頁, 1992.

心の健康と心理療法. 田畠治・蔭山英順編『心の健康を探る』(Introduction to Psychology 第7巻, 第1章), 福村出版, 11-42頁, 1992.

「心の健康」の捉え方—世界と日本の歩み. 田畠治・蔭山英順・小嶋秀夫編. 『現代人の心の健康』名古屋大学出版会, 1-13頁, 1992.

心の専門家とボランティア. 田畠治・蔭山英順・小嶋秀夫編『現代人の心の健康』名古屋大学出版会, 243-259頁, 1992.

〔論文〕

カウンセリングマインドとは何か. 『児童心理』6月号臨時増刊574 (第45巻第8号), 特集: 実践講座学校カウンセリング研修, 金子書房, 12-20頁, 1991.

わが国におけるPTSD(心的外傷後のストレス障害)に関する心理臨床学的研究〈序報〉. 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科, 第38巻, 191-202頁, 1991.

Some Social Issues of Mental Health in Japan. 心理臨床一名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要, 第

7巻, 3-8頁, 1992.

〔口頭発表〕

UCLA の NRCAAMH について. 第16回コミュニティ心理学シンポジウム. 湯の山温泉, 南山大学・名古屋大学・愛知淑徳大学共催, 1991.

心理治療の場で何が起こっているか—クライエント中心療法の立場から』(日本行動療法学会第16回大会, 埼玉大学教育学部)『行動療法研究』第17巻第2号, 6-7頁, 1991.

地域住民に及ぼす自然災害とメンタルヘルス—PTSD の観点から. 第17回コミュニティ心理学シンポジウム. 山口・湯田温泉, 山口大学・山口女子大学共催, 1992.

2. 心理臨床家の養成、教育・訓練の問題

〔論文〕

カウンセラー養成に果たすミニカウンセリングの役割—養成方法上の問題点をめぐって—1. 臨床分野でカウンセラー養成を行っている立場から. (日本カウンセリング学会第24回大会, 鹿児島女子大学)『カウンセリング研究』第24巻第1号, 82-83頁, 1991.

発達臨床学専攻の発足にあたって〈巻頭言〉. 心理臨床一名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要. 第6巻, 1-7頁, 1991.

臨床心理士の基本技術. 9. 倫理的要請について. 『心理臨床学研究』第9巻特別号, 50-51頁, 1991.

臨床心理士. 6つの基本課題. 5. 臨床心理的研究. 『こころの科学』増刊『臨床心理士入門』, 34-37頁, 1992.

全国大学・職域めぐり. I. 全国主要大学めぐり—名古屋大学. 『こころの科学』増刊『臨床心理士入門』70-71頁, 1992.

〔口頭発表他〕

ケースへのコメント: 稲富正治(東洋大学), ある撰